



OAL Ⅲ

続きます。研修会の復伝をします。二つの模擬授業がありました。①「山口と世界」②「英語が嫌い→楽しい」という内容でした。①は90分×8回の講義（山口の魅力を伝えるリーフレットの作成とプレゼンテーションが課題）の導入部分が紹介されました。大学生たちは専攻の違う初対面同士の班編成で学習を始めるそうです。当然最初は皆遠慮がちに自己紹介から始めてぎこちなく共通課題への議論を進めます。しかし発表を創り上げるためにはアクティブに話し合いを進めざるを得なくなり、最終仕上げのプレゼンのころにはお互いの意思疎通もスムーズになっていくようです。ちなみに山口大学の学生は山口県内出身者だけではないでしょうから面白い議論が進んでいったのではないかと想像しました。

②はそれほど英語が得意ではない学生対象の授業のようでした。自己紹介などの会話文の例がいくつか紹介され、それを活用しながらグループで英会話を進めていくものが主に紹介されました。担当の方が言われた「英語の授業でも身体的にアクティブすることは大切。」ということばが印象に残りました。たより73号では表面的なことだけにとらわれないようにということも述べました。しかし、そういえば小さな子どもたちはいろいろなことを体を使って覚えますね。形のないものを形にするというのは学びが実感できる（体で覚える）という点で効果的です。やはり子どもたちのアクティブさに学ぶことは大切になりそうです。また、「教え込むのではなく、引き出す。」ということばもメモして帰りました

保育園・幼稚園児たちはいつもアクティブです。保育士としては子どもたちに負けないようなアクティブさが求められます。しかし子どもたちと対抗するというのではなく、“アクティブに見守る”ことが大切ではないだろうかと思えます。

小学校の図工ですが、低・中・高学年の活動の変化をごく簡単に「つくりながら考える・構想してつくる・意図して（目的をもって）つくる」と表現することもできます。そこでは発達段階に応じた支援が必要になってきますね。

研修会の復伝としては個人の意見が多すぎますが、この中に一つでも参考にしていただけることがあったとすれば幸いです。

自校自賛

卒業生

第1期の卒業生が火曜日に来て、子育て広場「きらり」の活動に参加して盛り上げてくれました。仕事を始めて1年半の経験がある二人はやりがいととも厳しさも味わっていることと思えます。しかし、このように卒業した学校に来て“おみやげ話”をしてくれるということは充実した毎日を送っているんだなと思えました。元気な姿を見せてくれるということは後輩への励ましにもなります。これからも健康に気をつけて仕事に向かってほしいと思えます。

